

【解答】

問題一

問一 ア せんりよう イ かんたん ウ ずいはん エ 撮影 オ けいべつ カ 維持 キ 完璧

問二 a そして b たとえば c つまり d しかし e したがって

問三 自分として主体的に自律して生きていくためと他の人たちがいったいどのようなことを考えているのかという、他人の心の内側を考えるため。
(64字)

自己についての認識(自己を認知する能力)

問四 自分の顔

問五 自分を振り返って今の自分につなげることができる(こと)

問六 小さいときは身体的な特徴や持ち物などを、自己を表すものとし、児童期には、対人関係にかかわる特徴や能力で表現するようになり、青年期には、自分の性格や、人生についての思い、考え方などで認識するようになる。(100字)

問七 肯定的

問八 人は完全でなくてもよい

人はつい、理想的なよい自分を求めすぎてしまいますが、そういう状態ですと自尊心を低下させることにつながりやすくなるから。(59字)

問九 絶対的

問十 「得意なところもあるし、結構いけるところもあるなあ。まあ、こんなくらいでいいんだ」という**バランス感覚**
もしくは 「まあ、いいや」「こんなもんでしょう」といった**バランス感覚**

問十一 9、10歳になれば、それぞれの領域を分けて、得意や不得意についての自分の考えを持つようになるから。(48字)

問題二

問一 ア 存 続 イ 動 機 ウ 人 影 エ 親 密 オ 還 元

問二 逍遙のための小徑を見つけたとき

問三 比喩（直喩）

問四 ため息のような霧

問五 ・皮膚一枚通・・・という気配
・肌身が経験・・・という感覚

問六 ・都会でも大気の移動があり、それに生体としての体が覚える感慨や、世界に感官が開かれてあるのを味わう力は、田舎と同じく身についているから。（67字）

問七 ・水気を帯びた空気や丈高い草々、生活する鳥や獣たち、昆虫、そういった多様ないくつもの生命が、一斉に風に吹かれていく感じ（58字）